



品質性能試験報告書

試験結果は以下のとおりであることを証明する。
 平成 17 年 10 月 25 日

財団法人 建材試験センター
 中央試験所長 勝野 幸
 埼玉県草加市稲荷 5 丁目 2 番 20 号



試験名称	木造住宅用基礎に使用されるアンカーボルトの性能試験						
依頼者	会社名：株式会社 カ ナ イ 所在地：埼玉県八潮市西袋717-1						
試験項目	引張						
試験体 (依頼者提出資料)	商品名：メモリーアンカーボルトM12						
	試験体記号	アンカーボルト			木造住宅用基礎		本数
		形状及び寸法 mm	材質	表面処理	コンクリート		
	寸法 mm				圧縮強度 N/mm ²		
240-1 -1~3	全長：400 埋め込み深さ：240 ねじ部：M12 軸部：φ10.6	SWRM-8K (JIS G 3505)	電気亜鉛めっき めっき厚さ：5μm 有色クロメート	120× 400× 3000	呼び強度： Fc24 試験時 圧縮強度： fc=25.0	上端筋：D13 下端筋：D10 せん断補強筋： D10@300 SD295A (JIS G 3112)	3
<p>(注) 1. 記載内容は、依頼者提出資料による。 2. 木造住宅用基礎は、基礎の立ち上がり部分を対象（以下、基礎相当材という）としたものであり、鉄筋コンクリート造で製作されている。 3. 表中の試験時圧縮強度は、円柱試験体（φ100×200mm）3本の平均値を示す。 なお、圧縮試験方法は、JIS A 1108 による。 また、試験時のコンクリート圧縮強度は、呼び強度Fc24 N/mm²の±10%の範囲を目標とした。</p> <p>参 照：図-1 及び図-2（試験体） 表-1（コンクリートの調合） 表-2（アンカーボルトの引張材料強度試験結果）</p>							
試験方法	試験概要	図-3 に示すように、基礎相当材上面に鋼製の反力台を設置（反力台の内法支持間距離：アンカーボルト埋め込み深さの2倍）し、アンカーボルトにカプラー及び加力用鋼棒を取り付けた後、油圧ジャッキ、球座、ロードセル等を介して鉛直方向の引張荷重を破壊に至るまで連続的に加えた。この間、アンカーボルトの上下方向絶対変位（アンカーボルト自身の伸びを含む）を測定し、かつ、ひび割れの状況を目視観察した。					
	加力装置	センターホール型油圧ジャッキ、球座、加力用鋼棒及び反力台					
	測定装置	ロードセル（容量：200kN）、電気式変位計（容量：25mm、感度：500×10 ⁻⁶ /mm、非直線性0.1%R0 50mm、感度：200×10 ⁻⁶ /mm、非直線性0.1%R0） 及びデータロガー					
参 照：図-3（試験方法）							

つづく

つづき

	試験体		アンカーボルトと基礎相当材の 肌わかれ		最大荷重時		破壊状況
	記号	番号	荷重 (P_c) kN	変位 (δc_f) mm	荷重 (P_m) kN	変位 (δm) mm	
試験結果	240-1	1	—	—	46.0	6.0	アンカーボルトの 破断
		2	20.1	0.4	45.5	6.8	
		3	28.2	0.7	45.0	9.2	コーン状破壊
		平均	—	—	45.5	7.3	—
<p>(注) 1. 表中の変位(δ)はアンカーボルトの上下方向絶対変位を示し、次式により算出したものである。 $\delta = (DG1+DG2) / 2$ 2. 試験体240-1-1では、アンカーボルトと基礎相当材の肌わかれは観察されなかった。 参照：図-4 (荷重-変位曲線) 写真-1~写真-3 (破壊状況)</p>							
試験期間	平成17年 6月18日						
担当者	構造グループ 試験監督者 橋本敏男 試験責任者 川上修 試験実施者 林崎正伸, 守屋嘉晃, 早崎洋一						
試験場所	中央試験所						